



コミュニケーション向け利用ガイド

大学生・学部別ペルソナ集を「人物理解資料」として使う方法

人との会話が苦手な人ほど、「何を話せばいいのか」を考えすぎてしまいます。しかし実際のコミュニケーションで重要なのは、「面白い話をする事」ではありません。相手が、「この人は自分を理解しようとしている」と感じる事のほうが重要です。

この大学生・学部別ペルソナ集は、そのための「人物理解資料」として利用できます。

この資料には、単なる大学生活の情報だけではなく、価値観、恋愛観、将来不安、会話傾向、人間関係の築き方、性格的弱点などが整理されています。つまり、「その人物がどんな感覚で日常を生活しているのか」を知るための資料です。

大学生という年代は、特に価値観の差が大きい時期です。

同じ年齢でも、

- ・将来を真剣に考えている人
- ・自由を優先している人
- ・人間関係に悩んでいる人
- ・恋愛に慎重な人
- ・自信があるように見えて不安を抱えている人

など、考え方は大きく異なります。

さらに、所属学部によって、興味関心や会話傾向にも違いが出ます。

例えば、

- ・論理的に考えやすい人
- ・感覚的に話す人
- ・理想を重視する人
- ・現実を重視する人
- ・知識共有を好む人
- ・感情共有を好む人

など、会話の温度感そのものが変わります。

雑談が続かなくなる原因の多くは、「相手について知らなすぎる事」です。

例えば、「大学生」という情報だけでは、会話は浅くなりやすくなります。

- ・忙しい？
- ・授業大変？
- ・就活どう？

だけでは、誰にでも言える会話になってしまいます。

しかし、その人物が、

- ・どんな価値観を持っているのか
- ・どんな将来不安を抱えているのか



・どんなことに興味を持ちやすいのか

を少し知っているだけで、会話の入口は変わります。

例えば、

- ・その学部って、価値観かなり変わりそうですね
- ・将来について考えることが多いですか？
- ・人と話すとき、結構相手との距離感考えるタイプですか？

など、「その人自身」に近い会話がしやすくなります。

すると相手は、「この人は表面的な会話だけじゃない」と感じやすくなります。

ただし、この資料を使う上で重要なのは、「人を分類しないこと」です。

この資料は、「大学生はこういう人間だ」と決めつけるためのものではありません。

あくまで、「こういう価値観や感覚を持つ人もいる」という参考資料です。

例えば、

- ・この学部だから性格はこう
- ・このタイプだから恋愛観もこう
- ・この人物像なら絶対こう考える

と決めつける使い方をすると、逆に会話は不自然になります。

正しい使い方は、「理解の入口」にすることです。

コミュニケーションが上手い人は、知識量が多い人ではありません。相手が話しやすくなる空気を作るのが上手い人です。

また、この資料には、「弱点」や「不安」も含まれています。

人は、自慢話だけでは距離を縮めにくい一方で、不安や迷いには共感しやすい傾向があります。

特に大学生という年代は、

- ・将来
- ・恋愛
- ・人間関係
- ・自分の能力

などに対する迷いを抱えやすい時期です。

そのため、相手を「分析する」のではなく、「理解しようとする姿勢」が重要になります。

さらに、この資料は、現実の大学生を完全再現したものではありません。

創作的要素を含みながら、「こういう人物像はいそうだ」と感じられるリアリティを目指して構成されています。そのため、心理分析資料や統計データとしてではなく、「人物理解の入口」として利用してください。

コミュニケーションで最も危険なのは、「自分の話ばかりすること」です。

相手を理解しようとする人は、会話が完璧でなくても嫌われにくいですが、自分を理解してほしいだけの人は、長く話すほど距離を取られやすくなります。



ペルソナ図鑑

この大学生・学部別ペルソナ集は、「会話テクニック集」ではありません。
人によって異なる価値観や感覚を知り、「相手が話しやすくなる入口」を作るための人物理
解資料として利用してください。